

**瑞穂市地域福祉(活動)計画・高齢者生き生きプラン
策定に係る団体ヒアリング調査結果報告書**

令和2年8月

瑞 穂 市

目次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の概要	1
(3) 本報告書の留意点	1
2. 調査結果	2
(1) 活動分野	2
(2) 団体の活動期間	3
(3) 主な活動区域	3
(4) 活動拠点の有無	4
(5) 団体の規模	4
(6) 現在の活動で課題となっていること	5
(7) 活動する際に連携・協力する団体や機関	6
(8) 地域活動を活性化するために必要と思うこと	7
(9) 困りごとを抱えた方に対して、団体で行えること	8
(10) 福祉のまちづくりに向けてのご意見・ご要望	9

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、「瑞穂市地域福祉（活動）計画」及び「瑞穂市高齢者生き生きプラン」の見直しにあたり、計画策定の基礎資料とするため、福祉分野等で様々な活動をされている市内の各種団体に対して、調査シートによる意向調査を実施しました。

(2) 調査の概要

項目	内容等
対象団体	福祉分野等で様々な活動をされている市内の各種団体
調査時期	令和2年7月
調査内容・方法等	市内を拠点に福祉分野等で活動している各種団体に対して、活動分野や内容、活動する上での課題、活動を活性化するために必要なことなどを、調査シートへの記入によるヒアリング調査を実施しました。
ご回答いただいた団体	23 団体（順不同） <ul style="list-style-type: none">・ ふれあいサロンもみじ会・ NPO 法人学習館みずほ・ NPO 法人いなほの会・ 豊任園保護者会・ サロン・スマイル・ NPO 法人たすけあい花水木・ ほっこりクラブ・ みずほ生き生きサポーターくつろぎ隊・ 祖父江いきいきサロン・ 瑞穂市赤十字奉仕団・ みずほオヤジの会・ 瑞穂市要約筆記サークルみずほ・ NPO 法人キッズスクエア瑞穂・ ほのぼの会・ もりもりサロン・ 井場ふれあいサロン・ ちょっとつながりたい・ 安全サポート隊・ あおぞら会・ 牛牧団地ふれあいボランティア・ すみれの家保護者会・ 瑞穂市日本語サポーターズ・ 介護者家族の会

(3) 本報告書の留意点

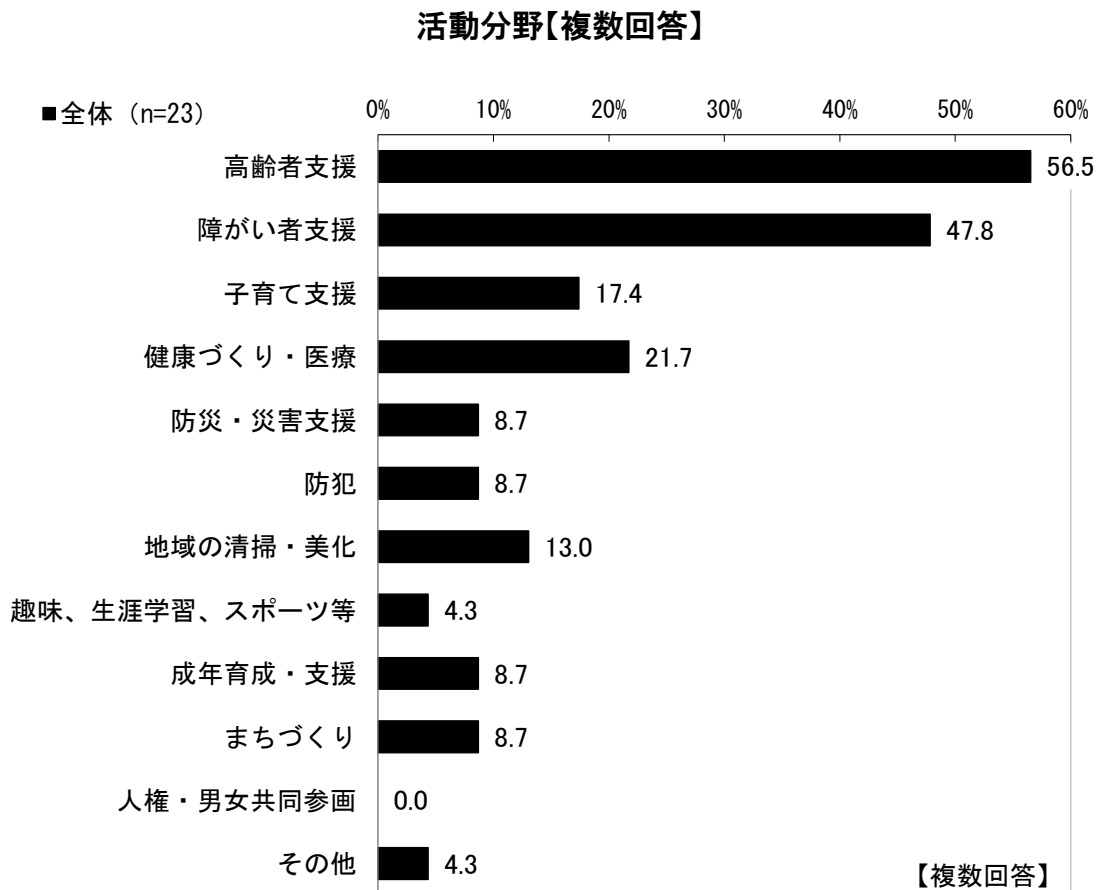
- ・ 比率は百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ・ 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は回答数を100%として算出しています。
- ・ 【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・ グラフ中の選択肢の文言は一部簡略化しています。

2. 調査結果

(1) 活動分野

- 「高齢者支援」が最も多く、次いで「障がい者支援」、「健康づくり・医療」の順。

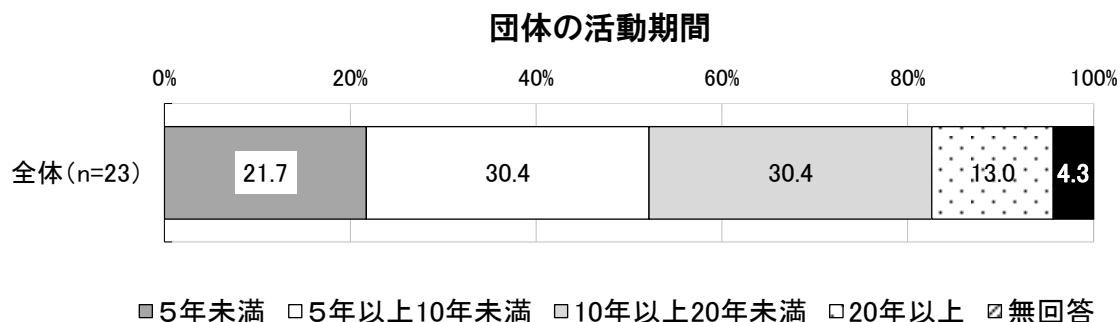
本調査にご協力いただいた団体の活動分野は、「高齢者支援」が 56.5%で最も多く、次いで「障がい者支援」(47.8%)、「健康づくり・医療」(21.7%)、「子育て支援」(17.4%)、「地域の清掃・美化」(13.0%)などの順となっています。



(2) 団体の活動期間

● 「5年以上10年未満」及び「10年以上20年未満」がそれぞれ約3割。

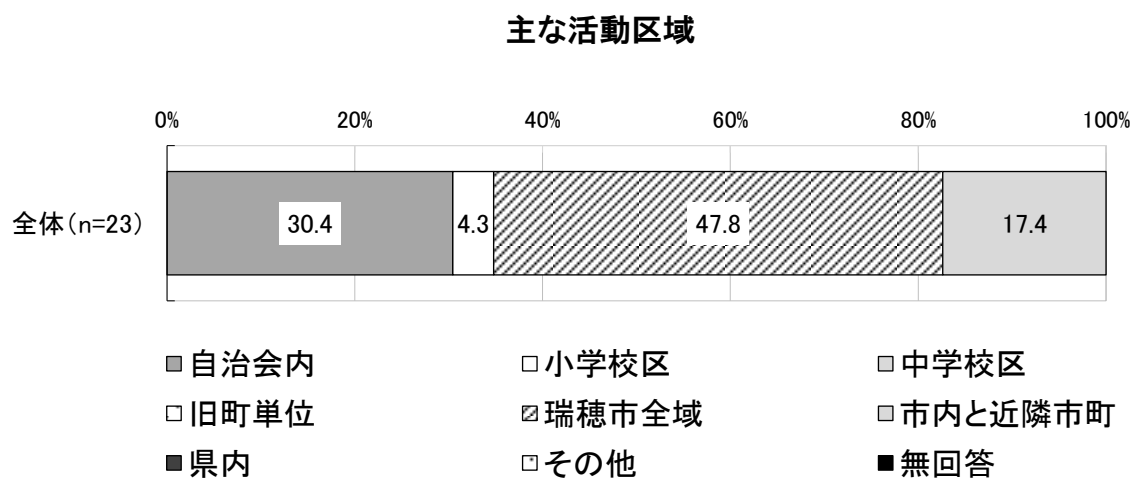
本調査にご協力いただいた団体の活動期間は、「5年以上10年未満」及び「10年以上20年未満」がそれぞれ30.4%と約3割となっており、「5年未満」が21.7%、「20年以上」が13.0%と続きます。なお、年数で最も長い団体は25年、最も短い団体で2年となっています。



(3) 主な活動区域

■ 「瑞穂市全域」が約半数で最も多く、次いで「自治会内」が約3割で続く。

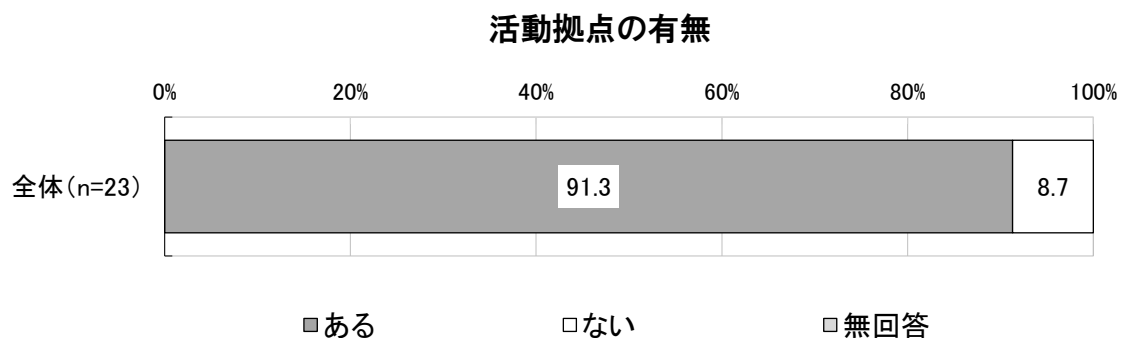
本調査にご協力いただいた団体の主な活動区域は、「瑞穂市全域」が47.8%で最も多く、次いで「自治会内」(30.4%)、「市内と近隣市町」(17.4%)、「小学校区」(4.3%)などの順となっています。



(4) 活動拠点の有無

●活動拠点が「ある」団体が約9割。

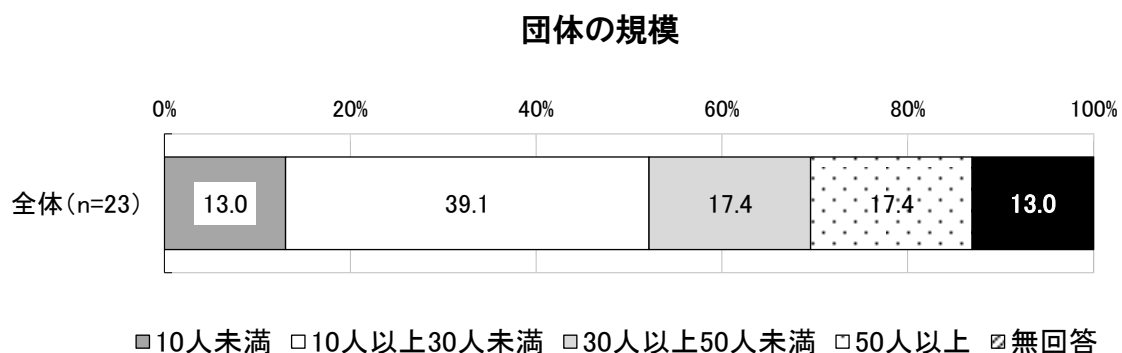
活動拠点の有無については、「ある」が91.3%と約9割を占めています。一方、「ない」は8.7%となっています。



(5) 団体の規模

●「10人以上30人未満」の団体が約4割で最も多い。

団体の規模（会員数）をたずねたところ、「10人以上30人未満」が39.1%と約4割で最も多く、次いで「30人以上50人未満」及び「50人以上」（同率17.4%）、「10人未満」（13.0%）の順となっています。なお、最も多い団体は87人、最も少ない団体は6人となっています。



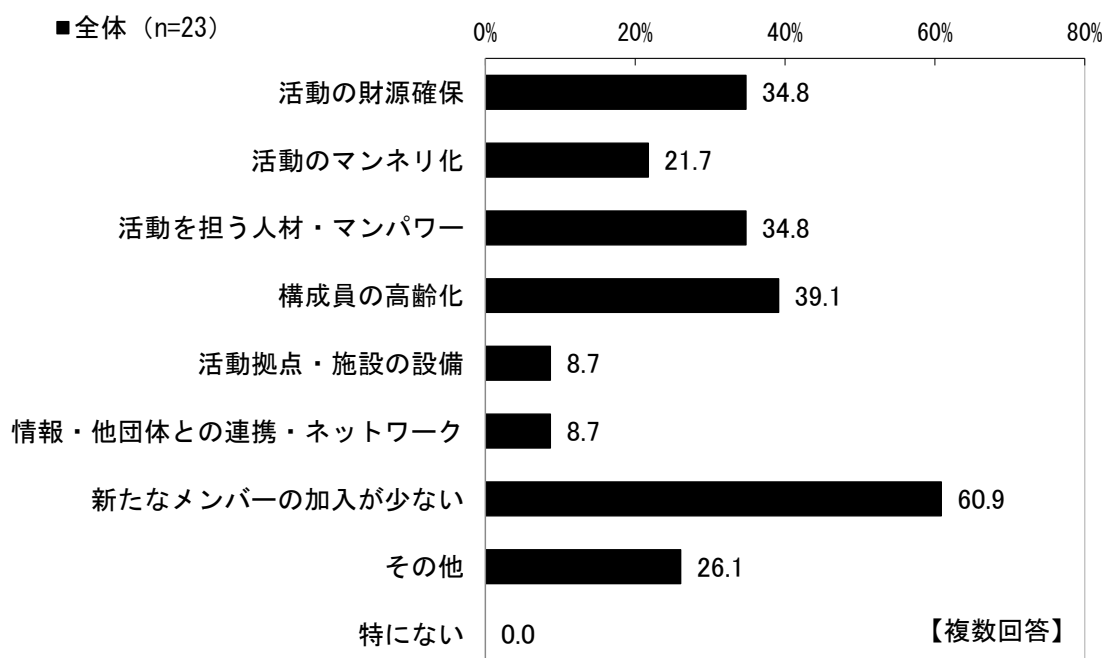
(6) 現在の活動で課題となっていること

- 「新たなメンバーの加入が少ない」が最も多く、次いで「構成員の高齢化」、「活動の財源確保」及び「活動を担う人材・マンパワー」の順。

現在の活動で課題となっていることについては、「新たなメンバーの加入が少ない」が60.9%で最も多く、次いで「構成員の高齢化」(39.1%)、「活動の財源確保」及び「活動を担う人材・マンパワー」(同率34.8%)などの順となっています。

これを活動期間でみると、活動期間が長い団体ほど、「新たなメンバーの加入が少ない」「構成員の高齢化」が課題となっていることがうかがえます。

現在の活動で課題となっていること【複数回答】



現在の活動で課題となっていること【全体、活動期間／複数回答】

		活動の財源確保	活動のマンネリ化	活動を担う人材・マン	構成員の高齢化	活動拠点・施設の情報・他団体との連携・ネットワーク	活動拠点・施設の設備	新たなメンバーの加入	その他	特になし	
		(%)									
全体 (n=23)		34.8	21.7	34.8	39.1	8.7	8.7	60.9	26.1	0.0	
活動期間	5年未満 (n=5)	40.0	20.0	40.0	20.0	40.0	0.0	40.0	40.0	0.0	
	5年以上10年未満 (n=7)	42.9	57.1	28.6	28.6	0.0	0.0	42.9	42.9	0.0	
	10年以上20年未満 (n=7)	28.6	0.0	28.6	42.9	0.0	28.6	71.4	14.3	0.0	
	20年以上 (n=3)	33.3	0.0	66.7	66.7	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	

(7) 活動する際に連携・協力する団体や機関

- 「瑞穂市社会福祉協議会」と連携する団体が最も多く、「自治会」、「老人クラブ」などが続く。

活動する際に連携・協力する団体や機関をたずねたところ、「瑞穂市社会福祉協議会」(5件)を挙げる団体が最も多く、「自治会」(4件)、「老人クラブ」(2件)、「豊任園すみれの家」(2件)、「民生委員・児童委員」(2件)などが続き、社協や自治会、老人クラブなどの組織、地域の福祉施設などとの連携・協力して活動を展開している団体が多い傾向がみられました。

活動する際に連携・協力する団体や機関

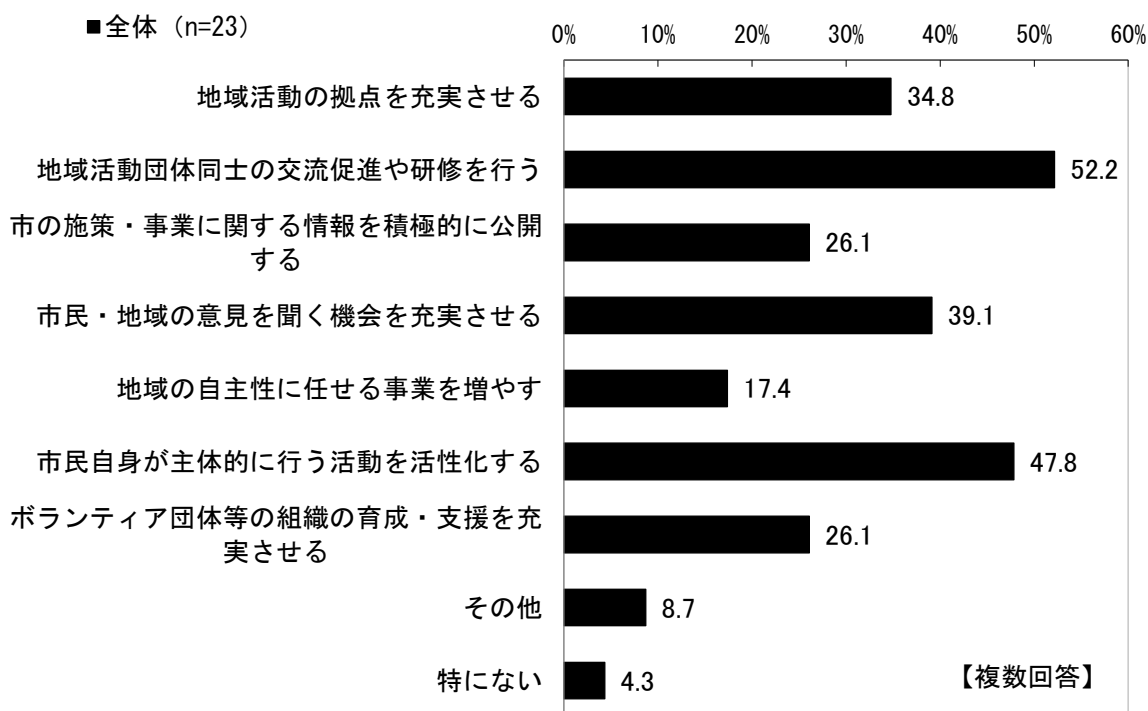
- ・ 瑞穂市社会福祉協議会 (5件)
- ・ 自治会 (4件)
- ・ 老人クラブ (2件)
- ・ 豊任園すみれの家 (2件)
- ・ 民生委員・児童委員 (2件)
- ・ 瑞穂市地域包括支援センター
- ・ 日本赤十字社岐阜県支部
- ・ NPO法人Linkupみずほ
- ・ 地区ボランティア
- ・ 岐阜県国際交流センター
- ・ 病院
- ・ NPO法人ぎふNPOセンター
- ・ 井場アロエ会
- ・ 岐阜県内で多文化共生活動をしている団体
- ・ 介護施設音楽活動をされている方 等

(8) 地域活動を活性化するために必要と思うこと

- 「地域活動団体同士の交流促進や研修を行う」最も多く、次いで「市民自身が主体的に行う活動を活性化する」、「市民・地域の意見を聞く機会を充実させる」の順。

地域活動を活性化するために必要と思うことについては、「地域活動団体同士の交流促進や研修を行う」が 52.2%で最も多く、次いで「市民自身が主体的に行う活動を活性化する」(47.8%)、「市民・地域の意見を聞く機会を充実させる」(39.1%)などの順となっています。

地域活動を活性化するために必要と思うこと【複数回答】

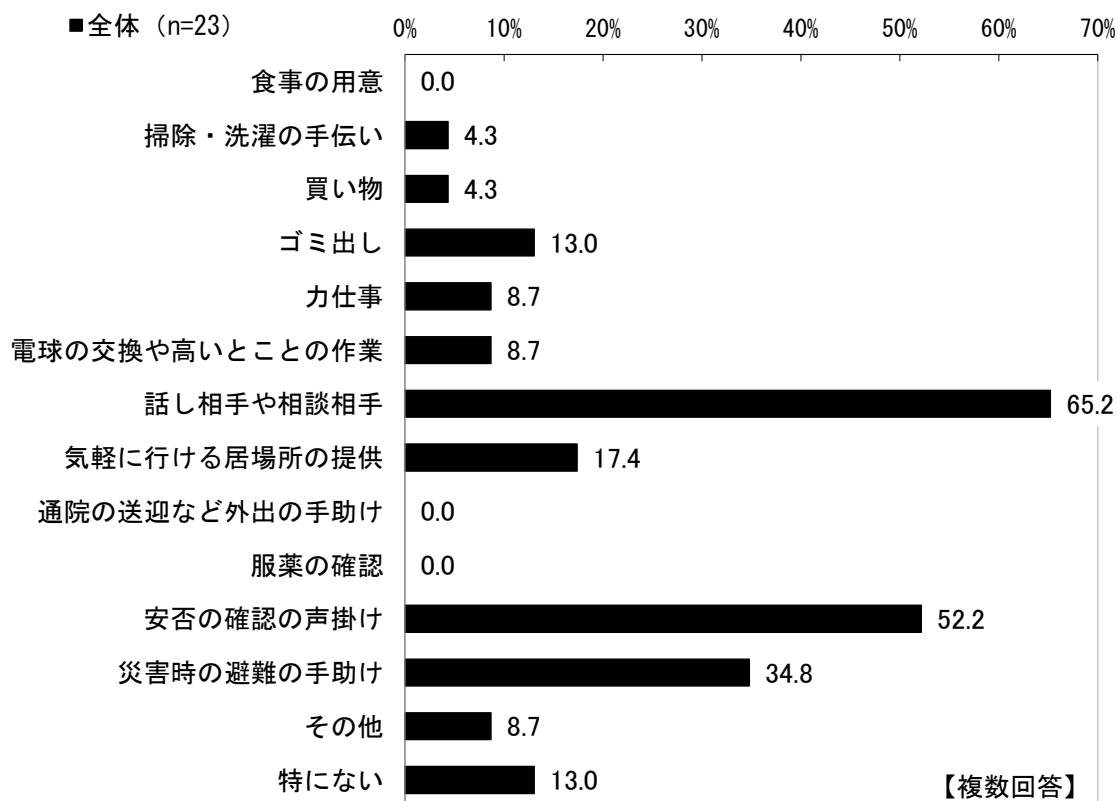


(9) 困りごとを抱えた方に対して、団体で行えること

- 「話し相手や相談相手」が最も多く、次いで「安否の確認の声掛け」、「災害時の避難の手助け」などの順。

困りごとを抱えた方に対して、団体で行えることについては、「話し相手や相談相手」が65.2%で最も多く、次いで「安否の確認の声掛け」(52.2%)、「災害時の避難の手助け」(34.8%)、「気軽に行ける居場所の提供」(17.4%)などの順となっています。

困りごとを抱えた方に対して、団体で行えること【複数回答】



(10) 福祉のまちづくりに向けてのご意見・ご要望

福祉のまちづくりに向けてのご意見・ご要望等を集約すると以下のとおりとなります。

福祉のまちづくりに向けてのご意見・ご要望

【地域福祉に関する課題】

- ・ 住みやすい、優しい瑞穂の次世代を担う人と地域づくりを望む。
- ・ ボランティア参加者の高齢化が進んで、活動が困難になってきている。
- ・ 福祉は公的機関に任せればよいなどの消極的な考えを持つ人が多いように思う。市民一人ひとりの共助の精神、ボランティア精神をどのように高めていくかが課題である。退職後の体力のある60代、70代前半の方、子育てを離れ比較的自由な時間を持つことができるようになった50代の方を活動に巻き込む施策を。
- ・ ボランティア活動体験を行い、「これならできそうだ」という気持ちを持ってもらう。
- ・ ボランティア活動について、活動する側と対象者となる側のミスマッチがあるように感じる。対象者ご自身が対象となるボランティア活動を知らないこともあると思う。
- ・ 高齢者だけの世帯が増加する中、地域（小学校区、自治会単位）での見守りや相互の助け合いが必要になります。小さな単位での活動ができる、また、それを広げて輪を大きくすることが重要だと考えます。
- ・ 市内で買い物に困っている人が多いと思います。利用しやすい買い物支援ができるとよいと思います。

【市への要望】

- ・ 類似する事業・組織の違いが市民に分かりにくい（例：包括支援センターと社協の関係）
- ・ グループホーム設立に向けての働きかけ。
- ・ 会員の緊急連絡先を義務づける必要があるが、個人情報の面からできていないので、市から制度等を整備してほしい。
- ・ 災害時等の避難でコロナの影響でどう変わったのか。高齢者は特に新型コロナに注意しないといけないため、市の方針等の説明がほしい。
- ・ 親なき後の活動の場を確保すること。

【計画について】

- ・ 計画策定では、具体的な取り組みと数値目標を定めて実行してほしい。